

# 令和元年度 三重県協同農業普及事業外部評価委員会 実施結果

三重県農林水産部担い手支援課

## 1 目的

協同農業普及事業（以下「普及事業」という）は、県民の立場に立って、県民の方々からの意見を反映したサービスを迅速・効率的に提供する活動が求められている。このため、県民の方々から幅広い視点で、普及事業に対する評価・意見・提言等を頂き、その結果を普及事業の実施に反映させることを目的とする。

## 2 評価対象

評価の対象は、普及活動計画の基本計画(12計画)を単位として、4か年をかけて基本計画の評価を順次実施する。

## 3 日時及び開催場所

令和元年11月29日(金) 10:00~17:00  
三重県農業大学校 2階 大教室

## 4 議事内容

普及活動基本計画検討会  
報告者：中央農業改良普及センター

## 5 出席者

令和元年度三重県協同農業普及事業外部評価委員\*  
農林水産部担い手支援課、  
中央農業改良普及センター（所長、室長、農業革新支援専門員）  
地域農業改良普及センター長  
※評価委員

区分	所属・役職	氏名	備考
学識経験者	名古屋大学大学院 教授	徳田 博美	委員長
民間企業等	オフィス・アイ 代表	石川 明湖	
消費者	三重県生活協同組合連合会 理事	大野 智香子	
先進的な農業者	三重県指導農業士連絡協議会 会長	大野 博司	副委員長
若手農業者	三重県青年農業士連絡協議会	工藤 正明	
女性農業者	三重県農村女性アドバイザーネットワーク	伊藤 良子	
農業関係団体	三重県農業協同組合中央会 企画総務部長	東元 崇史	
マスコミ	三重テレビ放送 報道制作部 副部長	坊農 秀治	

令和元年度 普及活動外部評価検討会 評価

以下の評価項目別の評価を別紙にある評価の視点を参考に《A：適切、B：概ね適切、C：見直し必要》の3段階から○をつけていただいた。評価委員8名の平均評価を明記。また、特記すべき事項（評価できる部分や見直しが必要な部分など）を明記。

普及活動計画名：第1報告 農業の未来を切り拓いていく農業経営体の育成

評価項目	評価	コメント欄
課題設定	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域農業の中核となる経営体の育成は重要な課題です。それらの経営体は、自らの経営発展だけでなく、地域農業総体の発展に資するような経営発展を期待します。</li> <li>・ 一経営体一カルテは事業者の全体像が分かっていると思います。是非、普及員が関わっている全ての事業者への普及をお願いします。</li> <li>・ 経営発展に意欲的な経営体の育成が必要だと感じました。</li> </ul>
目標設定	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 経営体に対する提案には様々なレベルの提案があると考えられます。提案数を目標とするのであれば、どのレベルの提案を対象とするのか、明確にしておくことが必要であると思われます。</li> <li>・ 時間軸での評価もあるといいと思います。金額目標とするのではなく、伸び率の方が良いと思います。</li> <li>・ 農家カルテは目標にこだわらず、なるべく提案実施率を上げるためだけの提案とならないように、多くの提案をするべきではないか。</li> <li>・ 農家カルテ作成経営体数の目標は若干高いと思います。</li> </ul>
活動手法	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 農家カルテによる経営改善の成果は、対象とする経営体にとどまらず、他の経営体への支援にも活かしていくことで、より広範な経営体の発展につながっていくと思います。</li> <li>・ 提案数でカウントするのは難しいのではないのでしょうか？農家のモデル化が必要であると思います。</li> <li>・ 経営体の目標や課題に合わせた提案・支援を行う事は評価出来ると思います。</li> </ul>

普及活動計画名：第2報告 次代を担う新規就農者の育成

評価項目	評価	コメント欄
課題設定	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 農業者の高齢化、減少が深刻化している現状では、新規就農者への支援は重要な課題です。新規就農者への支援は、関係機関が連携した包括的な支援が求められます。普及組織は、その中核となることが期待されます。</li> <li>・ 就農から事業化までのリスクは大きいと、当初からのリスク管理は重要だと思えます。また、就農当初は相談できる先も少ないため、各支援団体がチームとなって取り組むことはとても評価できます。</li> <li>・ 果樹や茶等の新規就農は難しいので、栽培を辞められる方等とのマッチングが重要と思われる。</li> </ul>
目標設定	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域の受け入れ体制に関しては、多様な地域レベル（集落から自治体、農協単位まで）が考えられます。しかも、組織によって範囲の異なるものが錯綜していることも考えられます。どのように捉えるのか、整理しておくことも必要と思えます。</li> <li>・ 所得を中心に目標設定されたことは素晴らしいと思えます。就農給付金が終了した後、農業で生活できるかが大きな課題となっています。</li> <li>・ 新規就農者が10年後20年後に次世代リーダーとして、次の世代を育てている姿に期待します。</li> </ul>
活動手法	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 新規就農者の支援で求められる内容は多岐にわたります。関係機関との連携・協調は特に重要です。</li> <li>・ 栽培技術力アップのための各関係機関と連携がされていることは大いに評価できます。また、農業大学の1年課程の学生には学生のころから計画づくり等の支援を期待します。</li> <li>・ 農業に興味がある、もしくは田舎暮らしに憧れがある県内外の人たち、中でも特に「うっすらと」関心がある人たちを引き込む手法を明確化することも踏まえては如何でしょうか。</li> </ul>

普及活動計画名：第3報告 農業・農村の6次産業化の推進

評価項目	評価	コメント欄
課題設定	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・6次産業化に取り組む農業経営は増えてきたと思われ ますが、事業を軌道に乗せられている経営は多くはな いようにみえます。取り組む経営体数よりも、事業の 質や成果が重要になると思います。</li> <li>・6次産業化のモデル作りはとても良い取り組みだ と 思います。6次化の各段階において、それぞれの課題 がありますが、経営全体として課題をとらえることは 良いことだと思えます。</li> <li>・新たな視点による振興策や目標達成ができるよう支 援体制の輪を広げていく事は必要だと感じました。</li> </ul>
目標設定	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・6次産業化を軌道に乗せるには時間がかかると思われ ます。長期的な展望の下で、目標達成を目指すことが 大切です。</li> <li>・販売目標だけではなく、所得目標も考慮した目標設定 が望ましいと思えます。</li> <li>・「自らの6次産業化事業計画書」の策定や目標達成で きる経営体の育成、後に続く経営体のモデル・支援者 として発展していく事に期待します。</li> </ul>
活動手法	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・これまでの6次産業化の振興の成果と課題を整理し て、どのような経営体にどのような6次産業化を進 めるのか、事業を軌道に乗せるために乗り越えるべき 課題は何かを明確にして取り組むことが重要です。</li> <li>・モデル作りは改善キーワードごとに作れるとよいと 思えます。認定事業者については実績報告時の動向も 重要であると思えます。</li> <li>・「三重県総合ビジネス商談会」に参加し、新しいビジ ネスの展開や営業形態を創出しようとする姿は評価 出来ると思えます。</li> <li>・商品を守るための工夫のひとつとして、広報・宣伝 (PR)という観点も踏まえてはいかがでしょうか。連 携機関の中に、広告代理店やマスコミ、ミニコミ等も 含めてはいかがでしょうか。</li> </ul>

評価項目	評価	コメント欄
課題設定	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食の安全・安心は、食料の生産、流通の基本的課題です。認証取得は、一つ的手段です。それにとらわれずに、安全を高め、消費者の安心を得ていくことが大切です。</li> <li>・普及員の努力により、GAP認証等の事業者は増加してきており、みえの安全・安心農業は拡大してきていると思います。継続が重要な課題であると思いますので、今後も継続した支援をお願いします。</li> <li>・みえの安全・安心農業生産方式の実践は必要だと感じました。</li> </ul>
目標設定	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国際認証は、輸出では重要な課題ですが、国内供給では必ずしも重要とは言えません。生産者の状況に応じた目標提示も必要です。</li> <li>・GAP導入により、経営の安定化が図られているか疑問に思います。環境を重視するあまり、農産物の品質低下を導いてないか心配します。</li> <li>・SDGs（169のターゲット2,4）の目標達成に貢献する姿は素晴らしいと思います。</li> <li>・産地で50%なので、個別カルテならもっと低くなると思うので、目標は75～80%程度が妥当ではないでしょうか。</li> </ul>
活動手法	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・GAPなどの取得が、経営的にもメリットがあると農業者が意識できるような環境を整えていくことが、重要であるように思います。そのための取組みも必要であると思います。</li> <li>・GAP、土づくり、投入資源の効率的活用の内容が、具体的にわかるようにモデルを作成してみてもどうかと思います。</li> <li>・GAP導入後の更新審査への支援が必要と思います。</li> </ul>

普及活動計画名：第5報告 農業被害軽減に向けた獣害対策の推進

評価項目	評価	コメント欄
課題設定	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・これまでの活動で、獣害対策に取り組む集落が増えてきたことは評価できます。今後は、取り組みの質的向上や継続性、集落を超えた連携で効果を上げることを期待します。</li> <li>・共通の進行管理シートで整理をされ、課題抽出されていることは非常に評価できます。</li> <li>・被害対策の高度化、新たな獣種への対応が必要だと感じました。</li> </ul>
目標設定	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・これまでの事業の成果を踏まえた目標になっている。</li> <li>・前回までの対策で成果が大きく出ているので、今回の目標設定も妥当であると思います。</li> <li>・安定的農業生産や農業を起点とする地域の活力向上にも期待します。</li> </ul>
活動手法	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新規作物の導入では、普及事業内の他の担当や関連機関と連携して進めることが大切です。</li> <li>・広域で連携されていることは素晴らしいと思います。獣害だけではなく、豚コレラなどの病気など、他のものにもよい影響を及ぼすと思います。</li> <li>・被害対策とあわせて、地域の活性化に取り組むことは評価出来ると思います。</li> <li>・高度化に限らず、新規の取組も疎かにならないようにお願いします</li> </ul>

普及活動計画名：第6報告 水田農業担い手の経営基盤強化と産地の強化

評価項目	評価	コメント欄
課題設定	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・これまでの成果や課題を踏まえ、適切なものとなっています。</li> <li>・現状をしっかりと捉えて、課題設定されていると思います。</li> <li>・生産性の向上に必要な新技術の導入が必要だと感じました。</li> </ul>
目標設定	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小麦の収量目標については、今年度の実績を踏まえ、今後、見直していくことも必要と考えます。また、経営体数を目標とすることはやむを得ないが、面積シェアについても留意することも必要だと思います。</li> <li>・作物別の目標設定だけではなく、経営全体の目標設定もされた方が良いのではと思います。</li> <li>・経営体数は、おそらく減少傾向になると見込まれます。経営体数を経営面積に変えてはどうでしょうか。</li> <li>・需要に応じた食料生産・高品質安定生産・種子生産に期待します。</li> <li>・麦の平均単収について、これまでの取り組みが奏功しつつあるということであれば、上方修正に賛同します。一方、大豆は昨年が全国最低ということであれば、目標は数値だけではなく、まずは全国平均に届くことも視野に入れてはどうでしょうか。</li> </ul>
活動手法	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個々の経営体の置かれた条件、作目ごとの需給、価格などの社会経済状況などを踏まえた適切な作目選択、技術導入が大切です。</li> <li>・農家カルテの情報に基づき、支援されることは、時系列の情報がわかってとても良いと思います。</li> <li>・麦・大豆の収量増、大豆の品質向上が必要と思います。</li> <li>・「農家カルテ」の活用が重要と感じました。種子法も気になるところです。</li> </ul>

普及活動計画名：第7報告 持続可能な水田営農システムの確立

評価項目	評価	コメント欄
課題設定	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中山間地域の水田農業の確立は重要です。しかし、有効な営農モデルは少なく、難しい課題であろうと思います。</li> <li>・地域課題を明確にされ、設定しておられると思います。</li> <li>・農地集積を進めると条件の悪いところが置き去りにされます。集積が近くでできればよいが、離れたところになると不便になります。</li> </ul>
目標設定	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目標としている中山間地域農業を、起点とした雇用創出の取組みの内容を明確にしておく必要があります。</li> <li>・一方、「中山間地域農業を起点とした雇用創出」については、移住や新規就農につなげるための目標として理解できます。各部署や市町との連携が不可欠だと思われる。</li> </ul>
活動手法	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・これからの集落営農の重要な課題の一つは、その継続性にあると思います。集落営農の担い手が減少している中では、新たな発展モデルを確立することが求められています。</li> <li>・人・農地プラン、地域活性化プラン、農地中間管理事業など、いくつもの対策があると思いますが、少しずつ色合いの違うものもあると思いますので、それぞれのモデルをきちんと整理して推進していただきたいと思います。</li> <li>・経営全体の支援は評価できます。</li> <li>・集落営農のグループに若手や新規の方が入りやすいような取り組みを願います。</li> </ul>



普及活動計画名：第8報告 野菜産地の維持活性化 やる気のある産地育成

評価項目	評価	コメント欄
課題設定	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現在、野菜農業の振興に期待されている役割は多様です。地域農業の発展を担う高収益作物、水田営農での経営多角化、新規参入者が最も取り組まれている作目、産地消の中心作目などです。個々の地域の状況などに応じた具体的な課題、振興戦略が求められます。</li> <li>・産地ビジョンを整備して取り組むことは非常に評価できます。</li> <li>・産地の課題解決に対して、普及から改善提案活動を行う事は評価出来ると思います。</li> </ul>
目標設定	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・産地ビジョンを作成している産地の規模などは、多様であると思います。具体的な取り組みでは、単なる産地数のみの追及に偏しないで、野菜農業総体の発展につながるよう進めてください。</li> <li>・産地、モデル農家、新規就農者という3段階での目標設定は、非常にわかりやすく事業を進めていきやすいと思います。</li> <li>・消費者は、三重県産の野菜を求めていると思います。野菜産地の将来像を描く事は、大切だと感じました。</li> </ul>
活動手法	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・野菜農業の振興では、生産面とともに流通・販売面も重要な課題です。現在、野菜には多様な流通チャネルがあります。適切な販売戦略の構築も求められます。</li> <li>・産地という大きなくり、すでに取り組んでいるモデル農家、これから進める新規就農者というそれぞれに区分をした支援は、大きな成果につながると思います。</li> <li>・ICTの活用は、今後の労働力不足対応には、有効なため早期の対応が必要。</li> <li>・将来の方向性が見える化した産地ビジョン、新規就農者への提案等による産地の活性化に期待します。</li> <li>・生産量1位のナバナをもっとPRし、消費を拡大することで価格の安定、生産の増加、産地の育成ができると思います。作っても売れなければ産地が成り立ちません。各地域で産地とするのではなく、大きく三重ナバナでブランド化すべきではないでしょうか。</li> </ul>

評価項目	評価	コメント欄
課題設定	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 現在、茶は他の農業部門以上に厳しい状況にあります。これまでの茶業経営や産地形態にとらわれずに、収益性の高い営農モデルを構築していくことが重要です。</li> <li>・ 儲かる茶づくりというコンセプトで各種の事業を行っていただいていると思います。しかし、残念ながら、三重県のお茶の知名度がなかなか上がらないのが現状だと思っています。魅力発信を更に積極的に行っていただきたいと思います。</li> <li>・ 「安心感」にいくらかかるのかなどを考える物差しとして、GAP など第三者認証の取得及び更新・維持にかかる負担（費用・手間）を、課題のひとつと捉えては如何でしょうか。</li> </ul>
目標設定	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 経営発展チャレンジといっても、有効なチャレンジの方向が見出しにくい状況にあると思います。その数だけでなく、多くの経営で情報共有しながら、目指すべき経営発展方向を見出ししていくことも大切です。</li> <li>・ GAPの推進がすすめられているため、輸出などの対応はできる環境が整ってきていると思いますので、妥当な目標であると思います。</li> <li>・ GAP に対する意識調査も行い、将来的に残る製茶工場数を予想するのも一つではないでしょうか。</li> <li>・ 「儲かる茶づくり」「選ばれる産地づくり」で更なる伊勢茶産地の活性化に期待します。</li> </ul>
活動手法	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 全体としてGAP取得に重心がかたよっているようにみえます。GAP取得を奨励する場合にも、その意義や効果を対象経営と共有して、より効果が発揮できるように進めてください。</li> <li>・ GAPの運用についての支援は評価できます。茶をいかに飲んでもらうか、どう売るとかなどの出口対策を積極的に行っていただければと思います。</li> <li>・ 次世代の産地形成に向け、高収益性且つ消費者が求める茶品質が見込まれる品種の導入に期待します。</li> <li>・ 販売促進に向けた広報（PR）戦略も明記してはいかがでしょうか。</li> </ul>

普及活動計画名：第10 報告 果樹産地の次代を切り拓く構造改革の推進

評価項目	評価	コメント欄
課題設定	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全国的に生産が縮小し、果実価格が上昇している中で、生産の維持・拡大の取組みが求められており、そのための生産基盤の整備は必須の課題です。</li> <li>・産地の定義を明確にし、現状から課題を設定されたことはとても評価できます。</li> <li>・果樹産業の将来にわたる維持発展は重要だと感じました。</li> </ul>
目標設定	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・産地プロフィールは、産地の生産者などの参加と合意形成が必要であると思われます。その手順が、あまり明確でないようにみえます。</li> <li>・短期間ではなく、長期的視点で見る設定はとても重要であると思います。</li> <li>・産地プロフィール作成、治療計画、将来の産地を牽引するリーダーとなる経営体の育成に期待します。</li> <li>・産地プロフィールの作成は、なるべく全産地で作っていただきたい。</li> </ul>
活動手法	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生産基盤の中でも園地整備が重要な課題となっており、地域的な園地整備と利用調整が求められています。産地を経営体としてとらえています。課題によっては経営体内にとどまらず、地域的な取り組みとして進めることも必要です</li> <li>・産地プロフィールを作成し、取り組んでいかれることで、産地の見える化が図れ、産地の農業者も現状を客観的に判断できると思います。</li> <li>・担い手対策が必要と思います。</li> <li>・担い手の高齢化が進む中で、「産地の核となる経営体」をどのように見出し、育成していくか。また、リーダーとなる農家（農業者）にかかる負担をどのように軽減していくかも課題になると思います。</li> </ul>

普及活動計画名：第11 報告 花き花木生産を通して「心の豊かさ」を提供できる花き経営体の育成

評価項目	評価	コメント欄
課題設定	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生産者の支援にとどまらず、消費者への働きかけを課題とすることは、花きの需要特性などからみて、挑戦的な課題設定であると思います。</li> <li>・理念の明確化、ターゲットの明確化による課題設定は素晴らしいと思います。</li> <li>・気候変動の激しい中で大変だとは思いますが、魅力溢れる花き生産が行える経営体の育成に期待します。</li> </ul>
目標設定	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目標の中には、継続的な活動（農福連携、花育活動など）と、基本的には単年度ごとの活動（商品開発、新品种・新技術導入など）が混じっているようにみえます。目標管理では、適切な管理、評価が必要と思われます。</li> <li>・花の需要拡大への目標設定は評価できます。</li> <li>・社会の中に花が溢れ「心の豊かさ」が実現され、平和で安全安心に暮らせる社会が実現することを願っています。</li> </ul>
活動手法	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個々の経営発展と、花育活動などの、いわば地域貢献を、計画の中で連携していくことは容易ではないように思います。</li> <li>・マーケットインの商品開発、物流、事業承継等は重要な課題であるため、支援の強化をお願いしたい。</li> <li>・若者や学生・生徒への花育を、もっともっと広めてほしい。大いに期待しています。</li> <li>・「花育」は、高く評価します。</li> </ul>

評価項目	評価	コメント欄
課題設定	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・畜種ごとに具体的な課題を明確にしている点は評価できます。畜産は、現在の豚コレラのように緊急に対応しなければならない突発的な課題が生じることの多い部門であると思います。どのような事態にも、常に機敏に対応できる体制も重要であると思います。</li> <li>・牛の価格高騰により、牛の肥育農家は経営継続が厳しくなっている中、現状をしっかりと捉え、子牛生産の視点は評価できます。</li> <li>・輸入飼料、子牛や初妊牛の価格の高騰等による経営課題についての取り組みは評価出来ると思います。</li> <li>・稲 WCS を提供できる農家と畜産農家のマッチングをしてほしい。</li> </ul>
目標設定	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・具体的な事業の実現を目標としています。それは目標がはっきりしている点では評価できます。ただし、それ以外の課題への対応が求められてくることもでてくると思います。状況に応じた柔軟な対応も必要です。</li> <li>・具体的な目標設定になっており、評価できます。</li> <li>・消費者としては、安全安心で安定した供給を願うばかりです。</li> <li>・米や茶のような「戦略的生産」についての目標が、設定されてもいいのではないのでしょうか。 三重県は、「松阪牛」という世界的ブランドを有しています。その松阪牛、さらに伊賀牛の流通戦略や、豚・鶏に関しても、新ブランドの研究・開発など視野に入れた目標設定を望みます。</li> </ul>
活動手法	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・畜産経営では、少数の大規模経営に対象が限定されているので、個々の経営体の状況に応じたきめ細かな対応が重要であると思います。</li> <li>・研究所やWCS農家との連携を図っていくことは、不可欠であると思います。循環型農業モデルの構築をお願いします。</li> <li>・キャトルステーション等の整備推進、人間も牛も課題は同じなのかもしれないと感じました。今後の発展に期待します。</li> <li>・鶏糞堆肥のにおい分解などの問題がなくなれば、鳥羽の牡蠣殻堆肥のように需要はあると思います。</li> </ul>

別紙（様式1：補足資料）

普及活動外部評価における評価項目と評価の視点

評価項目	評価の視点
課題設定	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 現状分析や把握は十分にできているか</li><li>・ 課題の選定は適切であるか</li><li>・ 課題の重要性・必要性は考慮されているか</li></ul>
目標設定	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 目指すべき目標は理解しやすいか</li><li>・ 成果指標は活動の成果として適切か</li><li>・ 目標値の設定は適正か（過小あるいは過大ではないか）</li></ul>
活動手法	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 活動の対象は適切に設定されているか</li><li>・ 課題に対する解決手法は適切なものとなっているか</li><li>・ 関係機関と連携した推進体制はとられているか</li></ul>

◎各計画の評価以外に気が付いたことなど、ありましたら、ご記入ください。

例) 計画全体に関することや普及活動などに対する意見・提案など

- 普及計画の上位計画に当たる県や国の農業の計画が、現在作成中であり、形式的にみれば、順番が逆になってしまっています。新たに策定された上位計画との整合性にも留意しながら、取り組みを進めていくことも必要です。

現在、行政の取り組みでは、数値目標が必須となってきました。それは、進行管理や透明性という点では有効な手法ですが、取り組みが数値目標の達成に矮小化されてしまう危険性もあります。数値目標は、本来の目標達成を見る上での一つの指標に過ぎません。計画を進める上では、本来の目標を見失わずに、適切に数値目標の達成を目指していくことが大切です。

取り組み対象とする経営体などを絞り込むことは、効率的で成果の期待できる事業の遂行という点では妥当である。ただし、最終的な目標は対象とする経営体の経営発展などのみでなく、その成果が地域に波及し、地域農業総体の発展につながることであると考えます。このような視点にも留意して、活動を進めてください。

取り組む普及課題を明確にし、重点的に取り組むことは妥当であると考えますが、計画には十分に盛り込まれていない課題も現場にはあると考えます。それらの課題についても、現場の実情を踏まえて、対応してください。

- 昨年度までの評価委員会で現場を見せていただいたことで、目標設定等が、自分の中で具体化できました。来年度以降、現地調査もあると思いますので、目標と成果が確認できるような事例を調査させていただけると嬉しいです。

また、昨年度、6次産業化の事例集が出されましたが、このような事例集やモデル農業者などの事例集があるととても参考になりますので、是非、作成していただきたいと思います。

- どの品目についても高齢化が進み、労働力確保が喫緊の課題となります。新規就農者も減少分が補えているとは思えません。労働力確保に向けた対策が必要と考えます。

- 消費者としては、安全安心な産物を安定して供給していただく事が第一ですが、生産者の皆さんの負担が少しでも軽くなることも願っています。

- 少子高齢化社会が進む中で、5年後10年後生産年齢人口も減少し、その中の農業者人口は、もっと少なくなると思います。後継者確保がむづかしい中、持続可能な経営体や集落営農組織を、増やすことはむづかしいと思います。

- それぞれの計画について、意見を様々書かせていただきました。全体に共通しているのは、「広報・啓発」の重要性かと思います。個々の計画によって偏ることなく、県内外の人たちに訴求できるような広報・啓発を望みます。